

ISSN 1881 - 980X

一般社団法人日本科学教育学会  
Japan Society for Science Education  
発行：中山 迅  
事務局：中西印刷株式会社 学会部内  
URL：<http://www.jsse.jp>

.....  
2015.12.15

NO.225  
.....

# 科学教育研究レター



## 目 次

■ 理事会だより	..... 2	■ 国際交流委員会だより	..... 9
第 268 回理事会報告 (案)		国際学会開催情報	
■ 年会	..... 5	EASE 2016 Tokyo 大会のご案内	
第 40 回年会開催案内 (第 2 次)		国際学会参加報告 (29)	
■ 学会賞	..... 7	国際学会参加報告 (30)	
第 39 回年会発表賞の決定		■ 編集委員会だより	..... 14
■ 研究会・支部だより	..... 8	2015 年度第 1 回編集理事会報告	
2015 年度研究会開催のお知らせ		■ 広報委員会からのお知らせ	..... 15

### 一般社団法人日本科学教育学会第 268 回理事会報告（案）

下記に第 268 回理事会報告（案）を掲載します。なお、これは議事要録承認前のものであり、要点のみを参考に掲載するものです。

日 時 2015 年 11 月 21 日（土）14:00～17:00  
会 場 コクヨ東京品川オフィス 11F1101 会議室  
出席者 会長 中山迅 副会長 吉岡亮衛  
理事 佐伯昭彦 坂谷内勝 寺田光宏 村山 功 清水美憲 三宅志穂  
稲垣成哲 荻原 彰 千葉和義 山下修一 日野圭子  
監事 熊野善介  
庶務担当幹事 青山和裕  
オブザーバー 久保田善彦

#### 1. 議事要録（案）の承認

○第 267 回理事会議事録（案）を承認した。

#### 2. 第 268 回理事会までの電子会議による審議事項と審議結果

○事務局からの発議により、8 月 31 日までに入会を希望した 6 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（9 月 13 日）。

○事務局からの発議により、9 月 30 日までに入会を希望した 7 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（10 月 14 日）。

○事務局からの発議により、10 月 31 日までに入会を希望した 9 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（11 月 19 日）。

#### 3. 報告事項

##### 1) 庶務・事務局

○事務局より文書受理（刊行物送付を含む）の報告があった。

##### 2) 経理・会員

○新規入会会員について報告があった。

##### 3) 機関誌編集

○「科学教育研究」の編集状況について報告があった。

##### 4) 学会賞

○年会発表賞の投票状況について報告があった。

5) 支部・研究会

○今年度の研究会の開催状況及び今後の予定について報告があった。

6) 調査研究・学術交流

○CSERS（教科「理科」関連学会協議会）との連携については、科学教育のステークホルダーの意見を聞くための「対話」をテーマとした会議を実施する方向で調整中である旨報告があった。

7) 国際交流

○EASE2016TOKYO 大会の支援について報告があった。

8) 年会企画

○第 40 回年会（大分大会）の準備状況について報告があった。

9) 広報・学会 IT 化

○特になし。

10) 若手活性化

○12 月 12 日（土）の研究会について報告があった。

11) その他

○特になし。

4. 協議事項

1) 退会希望者等について、退会希望者 1 名について保留し、その他の退会について承認した。

○退会希望者 23 名の承認について

現在会員数 1,403 名（正会員 1,216 名、学生会員 141 名、名誉会員 17 名、公共会員 1 名、賛助会員 3 名、シニア会員 25 名）（2015 年 11 月 11 日付）

（前回理事会：会員数 1406 名（正会員 1222 名、学生会員 142 名、名誉会員 11 名、公共会員 1 名、賛助会員 3 名、シニア会員 27 名）（2015 年 8 月 10 日付））

2) 年会発表賞について

○年会発表賞候補の中から以下の 3 件の論文が推薦され承認した。

- ・ 3G1-C4 森田直之（東京都立多摩科学技術高等学校、千葉大学大学院工学研究科）他
- ・ 3G1-D4 吉田実久（コペンハーゲン大学）他
- ・ 3B3-F8 高橋聡（東京工業大学）他

3) 年会について

○年会企画委員会の委員の委嘱（第 40 回年会からの実行委員）について、委員の委嘱候補者の推薦が提案されたが、第 40 回年会実行委員からの委嘱は 1 名、第 41 回年会実行委員からの委嘱は 1 名とし、各実行委

員会に再度推薦の依頼をし、回答があり次第委嘱状を送ることで承認した。

○第 39 回年会の決算書について提案があり、承認した。

#### 4) 代議員選挙・役員選挙について

○代議員選挙管理規程の改定について、投票の電子化に向けた規定の改定案が提案され、一部修正することで承認した。

○役員選任規程の改定について、投票の電子化に向けた規定の改定案が提案され、一部修正することで承認した。

#### 5) 機関誌編集

○編集用サーバ移行について、**Scholar One Manuscript**あるいは**Editorial Manager**に移行すること、及び、そのための費用を学会活性化積立金から支出することについて承認した。

#### 6) その他

○特になし。

#### 5. 次回以降の理事会予定

・第 269 回：2016 年 3 月 19 日（土）14:00～17:00 場所：コクヨ品川オフィス

・第 270 回：2016 年 6 月 18 日（土）14:00～17:00 場所：コクヨ品川オフィス

## 第 40 回年会 開催案内（第 2 次）

1. 年会テーマ： 科学教育における対話から学びの本質にせまる

2. 日程：2016年8月19日（金）～21日（日）（3日間）

3. 会場：ホルトホール大分（<http://www.horutohall-oita.jp/>）

〒870-0839 大分県大分市金池南一丁目5番1号

### 4. スケジュール概要（予定）

- 19日（金） 午前：課題研究・一般発表  
午後：課題研究・一般発表／インタラクティブセッション
- 20日（土） 午前：課題研究・一般発表  
午後：（代議員総会）／シンポジウム／懇親会
- 21日（日） 午前：課題研究・一般発表  
午後：課題研究・一般発表

### 5. 未就学児の託児所の利用について

第40回年会では、ホルトホール大分に併設する託児所をご利用いただけます。本件に関しまして、学会による費用支援のあり方について検討をしたいと思いますので、利用を検討されておられる方におかれましては、是非、ご希望をお聞かせください。ご利用申し込みなどの手続きは、実行委員会がとりまとめて行う予定で、募集時期などは改めて告知いたしますが、どれくらいの利用がありそうかを把握し、費用支援の具体的検討を実施したいと存じます。

ご希望をメールにてお知らせください。件名を「第40回年会 託児所利用希望」としていただき、本文に「お名前・ご所属」ご記入の上、2016年1月31日までに、実行委員会事務局の竹中宛（[tmakiko \[at mark\] oita-u.ac.jp](mailto:tmakiko[at mark]oita-u.ac.jp)）にご送付ください。改めてアンケートフォームを送付します。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

施設名： 駅南キッズステーションにゃ〜ご

対象年齢： 3ヶ月以上～未就学児

参考 URL： <http://www.horutohall-oita.jp/facility/interaction/kidsstation.php>

### 6. 就学児の一時預かりについて

ホルトホール併設施設を利用した就学児の一時預かりは無料ですが、利用人数により実行委員会の支援体制の検討が必要ですので、ご希望がどれくらいあるか事前調査を実施したいと思います。施設利用

は低学年程度までですが、中学年以上のお子様の実行委員会本部等での一時預かりも含め、利用を検討してみたいとお考えの方は、メールの件名を「第 40 回年会 就学児一時預かり利用予定」としていただき、本文に「お名前・ご所属」をご記入の上、2016年1月31日までに実行委員会事務局の竹中宛 (*tmakiko [at mark] oita-u.ac.jp*) にご送付ください。改めてアンケートフォームを送付します。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。(尚、実現可能かどうかを検討するための事前調査ですので、就学児の一時預かりが確定しているわけではありません。何とぞご了承ください。)

## 7. 連絡先

〒870-1192 大分県大分市旦野原 700

大分大学教育福祉科学部 竹中真希子

E-mail : *tmakiko [at mark] oita-u.ac.jp*

## 8. 年会実行委員会

【委員長】山下 茂 (大分大学)、【副委員長】牧野治敏 (大分大学)、【実行委員】三次徳二 (大分大学)、市原靖士 (大分大学)、島田和典 (大分大学)、中原久志 (大分大学)、【事務局】竹中真希子 (大分大学)

## 9. 年会企画委員会

【委員長】松浦拓也 (広島大学)、【副委員長】高藤清美 (筑波学院大学)、松寄昭雄 (埼玉大学)、【担当理事】日野圭子 (宇都宮大学)、加藤久恵 (兵庫教育大学)、【幹事】瀬戸崎典夫 (長崎大学)、【企画委員】泉 直志 (筑波大学)、大谷 忠 (東京学芸大学)、川上 貴 (西九州大学)、小泉健輔 (高崎健康福祉大学)、鈴木哲也 (東京未来大学)、野添 生 (宮崎大学)、増田有紀 (東京成徳大学)、松元新一郎 (静岡大学)、御園真史 (島根大学)、三好美織 (広島大学)、向 平和 (愛媛大学)、谷田親彦 (広島大学)、山本智一 (兵庫教育大学)

実行委員会の総力を挙げて第 40 回年会を盛り立てていく所存です。多数の皆様のご参加、ご来県を心よりお待ちしております。

第 40 回年会 実行委員長 山下 茂 (大分大学)

### 第 39 回年会発表賞の決定

学会賞選考委員会では、第39回年会発表賞について、会員からの推薦にもとづいて慎重に審議を重ね、候補者の選考を進めてまいりました。平成27年11月21日に開催された第268回理事会の議を経て、下記の3件に対して2016年度年会発表賞を授与することを決定しました。受賞者の皆様、誠にありがとうございます。なお、受賞者は本学会の会員（「\*」を付した発表者）に限られます。

#### 【年会発表賞】

発表者：森田直之\*（東京都立多摩科学技術高等学校、千葉大学大学院工学研究科）、築瀬立史（東京都立多摩科学技術高等学校）、林克征（東京都立多摩科学技術高等学校）、浅見大治（東京都立多摩科学技術高等学校）、川端康正\*（東京都立多摩科学技術高等学校、千葉大学大学院工学研究科）、中込秀樹（千葉大学大学院工学研究科）、早川信一（東京都立多摩科学技術高等学校）、金田裕治（東京都立多摩科学技術高等学校）

発表論文：ウルトラセブンを題材にした初等技術者倫理教育の実践と考察、第 39 回年会論文集、pp.300-301、2015。

選定理由：初等技術者のための倫理教育カリキュラム開発の研究で、「ウルトラセブン」の番組を題材とした興味深い教材を開発し、授業実践・評価を行っている。研究者倫理に関する教育カリキュラムの整備が急がれる現状において、意義ある研究である。SSH における学校全体での取り組みとして組織的に行われた授業実践である点も高く評価される。

発表者：吉田実久\*（コペンハーゲン大学）、ソルバーク・ヤン（コペンハーゲン大学）

発表論文：科学教員の専門的成長と教科特有信念:デンマークの学校教員の事例から、第 39 回年会論文集、pp.310-311、2015。

選定理由：教科特有の信念が科学教員の成長にどのように影響するかについて、デンマークの公立小中一貫校に勤務する女性科学教員を対象とした半構造化インタビューを実施し、「科学」という教科に特有な信念を抽出している。最新の科学研究の成果を授業に取り入れようとする教員の信念を描写する意欲的かつ示唆に富んだ研究で、今後の進展が期待される。

発表者：高橋聡\*（東京工業大学）、高橋 B.徹\*（東京理科大学）、吉川 厚\*（東京工業大学）、寺野隆雄\*（東京工業大学）

発表論文：マンガケースメソッドにおけるマンガカードソート法の提案、第 39 回年会論文集、pp.424-425、2015。

選定理由：思考の整理や外化を支援するツールとして開発されたマンガケースメソッドについて、知識の使い方を学ばせる教育手法として、大学生を対象として使用の効果についての検証実験を行って効果を確認している。建設的な相互作用を促進する方法についての新規性に富む研究であり、今後のさらなる研究の展開も期待される。

（学会賞担当理事 三宅、清水）

2015年度研究会開催のお知らせ

2015年度研究会の開催に関しては、下記の通りです。なお、案内及びプログラムなどの詳細については、学会ホームページに順次掲載するので、ご覧ください。

(1) 2015年度第6回日本科学教育学会研究会（北関東支部開催）

[テーマ] 科学教育の新しい動向

[主催] 一般社団法人日本科学教育学会

[日時] 2016年4月9日（土） 9:00~16:30

[会場] 筑波大学 人間系学系棟 B532 大会議室

〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1

[対象] 会員、教員、学生、社会人

[参加] 参加費は無料です。

会員、非会員にかかわらず、どなたでも参加できます。

[申込み先] 2015年度第6回日本科学教育学会研究会・企画編集委員：片平克弘

〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1

筑波大学人間系 理科教育学研究室

Tel/Fax : 029(853)4589

E-mail : [katahira \[atmark\] human.tsukuba.ac.jp](mailto:katahira[atmark]human.tsukuba.ac.jp) (片平)

[発表申込・原稿締切]

発表者は本学会員のみです。連名の発表の場合には、連名者のうち少なくとも1人が会員である必要があります。発表申し込み時に「入会申し込み」が完了していれば、会員として扱うこととします。

発表を希望される方は、氏名、所属、発表題目、E-mail アドレス、電話番号、連絡先住所、使用機器を明記した E-mail を 企画編集委員：片平克弘（筑波大学）までお送りください。

発表申込〆切は、2016年2月19日（金）です。

発表原稿様式等については、発表申込があった方に E-mail にてお知らせいたします。原稿送付〆切は、2016年3月11日（金）です。

多数の方々の申込をお待ちしております。

日本科学教育学会 北関東支部長 人見久城（宇都宮大学）

国際学会開催情報

今後、下記の5つの国際学会が開催予定である。詳細については、各ホームページをご参照いただきたい。

1) ICASE (The International Council of Association for Science Education) 2016 -World Science and Technology Education Conference-

開催地：Antalya, Turkey

期間：2016年11月1日～5日

締切等：2016年2月1日（アブストラクト提出締切）

2016年7月1日（Early Bird 参加申込期限）

<http://www.icas2016.org/>

※日本科学教育学会はICASE加盟団体のため、参加費の割引がある予定です。

（愛媛大学教育学部・隅田 学）

2) SITE (Society for Information Technology and Teacher Education) 2016

開催地：Savannah, GA, USA

期間：2016年3月21日～25日

締切等：2016年2月25日（Early Bird 参加申込期限）

<http://site.aace.org/conf/>

3) AERA (American Educational Research Association) Annual Meeting 2016

開催地：Washington, DC, USA

期間：2016年4月8日～12日

締切等：2016年2月19日（Early Bird 参加申し込み期限）

<http://www.aera.net/EventsMeetings/AnnualMeeting/tabid/10208/Default.aspx>

4) ICLS2016 (12th International Conference of the Learning Sciences)

テーマ：Transforming Learning, Empowering Learners

開催地：Singapore

期間：2016年6月24日～6月28日

締切等：2015年12月15日（ワークショップ、チュートリアル提案期限）

2016年1月29日（査読結果通知）

2016年2月29日（カメラレディ原稿締切）

2016年4月15日（Early Bird 参加申込期限）

<https://www.isls.org/icls/2016/>

5) EdMedia2016 (World Conference on Educational Media and Technology)

開催地 : Vancouver, BC, Canada

期間 : 2016 年 6 月 27 日～30 日

締切等 : 2015 年 12 月 16 日 (プロポーザル投稿締切)

2016 年 5 月 25 日 (Early Bird 参加申込・カメラレディ期限)

<http://www.aace.org/conf/edmedia/>

6) AECT (Association for Educational Communications and Technology) International Convention 2016

開催地 : Las Vegas, NV, USA

期間 : 2016 年 10 月 17 日～21 日

締切等 : 2016 年 2 月 1 日 (プロポーザル投稿締切)

2016 年 5 月 18 日 (Early Bird 参加申込期限)

(専修大学ネットワーク情報学部・望月俊男)

2016 International Conference of East-Asian Association  
for Science Education (EASE 2016 Tokyo 大会) のご案内

2016 年 8 月 26 日から 28 日にかけて、東京理科大学において、East-Asian Association for Science Education (EASE) 2016 大会 (大会テーマ : Innovations in Science Education Research & Practice: Strengthening International Collaboration) が開催されます。EASE は、2007 年に設立された学会で、今回が初めて日本での開催となります。まだ EASE 会員でない方でも参加・発表できます。

EASE 大会では、東アジア諸国・地域を中心に、世界各国から科学教育研究者や教師、大学院生が参加し、数学教育や STEM 教育も含め、科学教育に関わる幅広い領域の研究発表や意見交換を通して、活発な研究交流が行われます。EASE では、大学院生を対象としたサマースクールやウィンタースクールを定期的で開催しており、若手研究者の育成やネットワーク構築も積極的に行っています。

開催日 : 2016 年 8 月 26 日～28 日 (25 日は前日イベントあり)

開催地 : 東京理科大学 神楽坂キャンパス

締切等 : 2016 年 4 月 15 日 (アブストラクト提出締切)

2016 年 6 月 30 日 (Early Bird 参加申込期限)

大会ホームページ : <http://ease2016tokyo.jp/index.html>

お問い合わせ : [ease2016tokyo\[at\]gmail.com](mailto:ease2016tokyo[at]gmail.com)

## 国際学会参加報告 (29)

### —EASE (East-Asian Association for Science Education) Conference 2015

#### 参加報告—

2015年10月16-18日までの3日間、中国のBeijing Normal University (北京師範大学)においてEASE (East-Asian Association for Science Education) Conference 2015が開催された。本大会は、隔年で開催される東アジアを中心とした国際大会である。今回は2013年に続く第4回目にあたり、テーマは "Promoting Science Education Reform Through Research" であった。研究を通じて科学教育改革を推進する方法について、"Development of science curriculum"、"Learning and teaching science"等の12のサブテーマのもとで、東アジア地域を中心とした参加者によって議論が交わされた。具体的には、計15ヶ国/地域から349件(口頭発表188件、ポスター発表124件、招待講演13件、シンポジウム5件、ワークショップ7件、その他展示12件)の発表があった。発表件数の多い国/地域順は、中国(53.9%)、韓国(16.9%)、台湾(10.0%)、日本(6.9%)、米国(5.2%)であった。開催国である中国の割合が多かったが、これはポスター発表、ワークショップ、その他展示で件数が多く、大会を盛り上げたことが要因となった。日本からは、招待講演に松浦拓也先生(広島大学)が登壇された他、合計で24件(口頭発表12件、ポスター発表8件、招待講演1件、シンポジウム2件、ワークショップ1件、その他展示0件)の発表があった。日本の発表件数は、前大会(32件/349件)よりやや減少した。

以下に、本大会の様子を紹介することにした。なお、本大会では、松本伸示先生(兵庫教育大学)との共著論文 "Development and Evaluation of a Practice Model Based on the QUILT Framework in a Case of the State Change: Analysis of Utterance Protocol Using Text Mining" で、論文賞を受賞した。

先に述べたとおり本大会は、隔年開催の国際大会である。しかし、同様に隔年開催の欧州の学会ESERA (European Science Education Research Association) と開催年が同じであり、いずれかの学会を選択して参加するという実態があった。さらに、EASEは、ESERAと連携強化を図ることで、東アジア地域という枠を超える視点を持っている。これらを踏まえ、次回は2年後ではなく、来年、2016年8月26-28日に開催される予定である。しかも、次回は、東京理科大学が会場となる。開催国として、可能な限り多くの国内研究者が協力し合いながら世界の研究者を迎えるような体制を整えるとともに、積極的に研究成果を世界に向けて発信していく必要があると感じている。



口頭発表の様子



招待講演の様子

(愛媛県立北宇和高等学校・山岡武邦)

## 国際学会参加報告 (30)

### —E-Learn (World Conference of E-Learning) 2015 参加報告—

2015年10月19日(月)～22日(木)、アメリカ合衆国ハワイ州のハワイ島コナ地区において、AAACE (Association for the Advancement of Computing in Education) が主催する E-Learn 2015 国際会議が開催されました。eラーニングに関連する研究発表が数多くなされましたが、以下の5つの発表が受賞となりました(詳細は、<http://www.editlib.org/awards/ELEARN/2015/> を参照してください)。

Morisse, K. (2015). Implementation of the Inverted Classroom Model for Theoretical Computer Science. In *Proceedings of E-Learn: World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, and Higher Education 2015*, pp. 426-435.

Paek, S. & Hoffman, D.L. (2015). Students' Conceptual Understanding of Leadership in a Global World: Learning via a Web-based Simulation of Political and Economic Development. In *Proceedings of E-Learn: World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, and Higher Education 2015*, pp. 891-896.

Martini, N., Datt, A., Bhargava, A. & Webster, C. (2015). Ready to Practice? Learning skills using digital simulated patients. In *Proceedings of E-Learn: World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, and Higher Education 2015*, pp. 1527-1532.

Xie, J. & Basham, J. (2015). Mobile Learning for Students With and Without Disabilities in K-12 Educational Setting. In *Proceedings of E-Learn: World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, and Higher Education 2015*, pp. 1647-1664.

Read, M., Morel, G. & Hennington, D. (2015). Using ADDIE to Design Online Courses Via Hybrid Faculty Development. In *Proceedings of E-Learn: World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, and Higher Education 2015*, pp. 1873-1878.

今回は、3名の基調講演が行われました。エディンバラ大学の Dragan Gasevic 氏は Learning analytics に関する内容について、ミシガン大学の Charles Severance 氏は MOOCs について、ニューメキシコ大学の Lani Gunawardena 氏は、オンライン学習についてのテーマでした。また、科学教育に関連する発表として、STEM 教育に関連する iPad のアプリケーションをルーブリックで評価するという取り組みがありました (Capraro et al., 2015)。この発表で提示されたルーブリックの評価項目は、「Curriculum Connection (カリキュラムとの関連性)」、「Authenticity (真正性)」、「Feedback (フィードバック)」、「Differentiation (識別性)」、「User Friendliness (使い勝手)」、「Motivation (動機付け)」、「Reporting (報告)」の7観点で、1～4の尺度で構成されていた点に興味深く思いました。eラーニングや ICT に関連する研究に取り組まれている先生は、是非、発表の場としていただければ幸いです。



Charles Severance 氏の基調講演

#### 【参考文献】

Capraro, M.M., Nite, S., Koplara, M., Capraro, R., Morgan, J. & Barrosa, L. (2015). Appropriate

Technology in STEM Education: Using a Rubric to Assess iPad Apps. In *Proceedings of E-Learn: World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, and Higher Education 2015*, pp. 1719-1725.

公式ホームページ: <http://www.aace.org/conf/elearn/>

(東京学芸大学自然科学系情報科学分野・北澤 武)

2015 年度第 1 回編集理事会報告

2015 年 11 月 21 日（土）11:00～13:50、2015 年度第 1 回編集理事会がコクヨ品川オフィス 1 階において開催された。

まず、「科学教育研究」の編集状況の報告が行われた。新規投稿論文（2015.8.1～2015.10.31）：21 編（内訳：和文 20 編、英文 1 編）、査読中論文（2015.10.31 現在）：41 編（内訳：担当編集委員選定中：5 編、査読員選定中：2 編、査読中（1 回目）：17 編、総合判定中（1 回目）：3 編、改訂稿待ち：6 編、査読中（2 回目）：4 編、編集委員長最終判定中：4 編）、掲載決定論文（2015.8.1～2015.10.31 現在）：7 編（内訳：研究論文 6 編、資料 1 編（通算合計 39-4：7 編））。

次に、特集編集部会長から、第 40 巻特集「科学教育におけるモデリング研究とその連携」について、進捗報告があった。8 月末の事前エントリーの段階で論文は 16 本あり、9 月末の締め切りで最終的に受理された論文は 14 本（招待論文 1 本、研究論文 11 本、資料 2 本、取消 1 本、一般論文へ変更 1 本）であることが報告された。

更に、次期特集号のテーマ、特集号と年会との連携のあり方、次期投稿システムおよび執筆要項改訂等について議論をした。

次回、2015 年度第 2 回編集理事会は、2016 年 3 月 19 日（土）、11:00～14:00、場所はコクヨ品川オフィスを予定している。

「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況

（平成 27 年 10 月 31 日現在）

	新規投稿論文数（編）		審査中（編）		掲載決定論文数（掲載号）		招待論文数（掲載号）		掲載不可論文数	
	和文	英文	和文	英文	和文	英文	和文	英文	掲載不可	辞退
2014年 11月	4	0	39	3	2 (38-4) 0 (39-1)	0 (38-4) 0 (39-1)	0		3	1
2014年 12月	4	0	26	2	4 (39-1) 1 (39-2)	0 (39-1) 0 (39-2)	0		9	1
2015年 1月	8	0	27	1	1 (39-1) 1 (39-2)	0 (39-1) 0 (39-2)	0		5	1
2015年 2月	5	0	28	1	2 (39-2) 0 (39-3)	0 (39-2) 0 (39-3)	2		2	0
2015年 3月	7	1	25	2	6 (39-2) 0 (39-3)	0 (39-2) 0 (39-3)	0		4	0
2015年 4月	8	0	27	2	2 (39-2) 1 (39-3)	0 (39-2) 0 (39-3)	0		2	1
2015年 5月	1	0	22	2	1 (39-2) 5 (39-3)	0 (39-2) 0 (39-3)	0		1	0
2015年 6月	6	0	27	1	0 (39-3) 0 (39-4)	0 (39-3) 0 (39-4)	0		2	0
2015年 7月	5	0	27	1	2 (39-3) 0 (39-4)	0 (39-3) 0 (39-4)	0		2	1
2015年 8月	5	0	28	1	3 (39-4) 0 (40-1)	0 (39-4) 0 (40-1)	0		1	0
2015年 9月	15	1	34	2	3 (39-4) 0 (40-1)	0 (39-4) 0 (40-1)	0		4	2
2015年 10月	6	0	39	2	1 (39-4) 0 (40-1)	0 (39-4) 0 (40-1)	0		0	1

招待論文については、新規投稿数、審査中論文数に加えておりません

### 広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 225 号をお届けします。一般社団法人日本科学教育学会の広報活動についてお気づきの点などがございましたら、学会 Web サイトにある「お問い合わせ」をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事：谷塚光典（信州大）	森田裕介（早稲田大）	
委員：渡邊慶子（滋賀大）	久保田善彦（宇都宮大）	鈴木 誠（北海道大）
荻原 彰（三重大）	清水美憲（筑波大）	望月俊男（専修大）
谷田親彦（広島大）	辻 宏子（明治学院大）	
幹 事：内ノ倉真吾（鹿児島大）	小松孝太郎（信州大）	

科学教育研究レター編集 日本科学教育学会広報委員会

一般社団法人日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

□ 事務局 中西印刷（株） 学会部 内

TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662

E-mail : [jsse \[at mark\] nacos.com](mailto:jsse[at mark]nacos.com)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

□ 編集事務局（論文投稿・査読編集）

TEL : 075-415-3155 FAX : 075-417-2050

E-mail : [jsse-hen \[at mark\] nacos.com](mailto:jsse-hen[at mark]nacos.com)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座：00170-6-85183 日本科学教育学会

銀行口座：みずほ銀行 京都中央支店 普通 2269008 日本科学教育学会